

## 「電気柵の感電事故 漏電防止など安全対策で説明したニュース」

会員の森山哲氏が NHK のニュースで説明しました。下記の出典をクリックすると映像が見られます。

### 1. 川での感電 比較的弱い電流でも大事故に

感電事故に詳しい、消費者庁の消費者安全調査委員会の専門委員を務める、技術士の森山哲さんは、「川の中では、水が流れる方向に関係なく電気は流れ、人間の体もおよそ6割が水で出来ているため、電気を流しやすい。川の中にいて、いったん体に電気が流れると、筋肉が収縮して動けなくなり、さらに長時間体に電流が流れつづけることで、心臓の動きも乱れてしまう。このため、川の中では、陸上での感電に比べて、比較的弱い電流でも死に至る可能性が高くなる」と話しています。

出典：<http://www.safetyeng.co.jp/topics/index.html>

### 2. 専門家「水中は電気通りやすく非常に危険」

電気電子部門の技術士で、消費者庁の消費者安全調査委員会の専門委員を務める森山哲さんは今回の事故について、「電気は水の中などでは放射状に伝わっていく性質があり、それは川のように流れがある場合でも変わらない。また、光と同じくらいの速さなので一気に伝わったと考えられる。陸上では皮膚が絶縁体の役割をするが、水中では皮膚も水に覆われてしまうため電気が通りやすくなり非常に危険だ。ただ、電気柵を設置する際に必要な安全対策がとられていれば、漏電しても人体に影響が出るような事故は起きなかったはずで、今回は電気が流れ続けていたとみられる」と話しています。

### 3. その他の活動：「消費者安全調査委員会への貢献」の発表：日本技術士会 社会貢献委員会主催

消費者に提供される製品やサービスによって消費者の生命や身体の安全をおびやかす事故の原因究明を消費者安全調査委員会(通称 消費者事故調)がおこなっており、2014年に2件の報告書が発行され、さらに5件の調査報告が出そうです。その事故調査に専門委員として技術士が任命され活躍しています。

私、森山哲は佐藤国仁技術士(機械部門、総合技術監理部門)とともに、消費者事故調の専門委員に任ぜられて、機械式立体駐車場事故の原因究明と再発防止と被害低減策を講じることに約1年間あたってきました。その報告書は2014年7月に発行されました。

出典：[http://www.engineer.or.jp/c\\_cmt/shakai/topics/003/003533.html](http://www.engineer.or.jp/c_cmt/shakai/topics/003/003533.html)

以上